～ちょっと気になる感染症～

百日咳について

◆百日咳とは

百日咳は、百日咳菌によって起こる感染症です。１歳未満（特に生後６か月未満）の乳児は重症化しやすく、ワクチン開始前には百日咳患者の約１０％が死亡していました。
大津市内でも毎年、小児を中心に感染者が出ています。

◆症状について

潜伏期間は７～１０日（最大２０日）で、普通のかぜ症状で始まり、次第に咳の回数が増えて、程度が激しくなります。その後、短い咳が連続的に起こり、息を吸う時に笛のようなヒューという音がするようになります。無呼吸発作からのチアノーゼ（唇の色の悪化等）、けいれん等を起こすことがあります。
発熱することもありますが、微熱程度です。
通常、２～３か月で回復しますが、乳児では、肺炎、脳症を合併することもあり、注意が必要です。
成人は、咳が長期間持続しますが、軽症のため見逃されることが多いため、感染源にならないよう注意が必要です。

◆感染経路について

飛沫、接触により感染します。特に、発症初期（咳が始まってから約２，３週間）は、最も感染力が強いです。発症初期にワクチン未接種の同居家族に感染させる可能性は、８０～９０％と高いです。

◆治療について

生後６か月以上の患者では、抗菌薬を使用します。発症後２～３週間までに薬を飲むことにより、排出される菌の量が減り、菌が排菌される期間が短くなります。

◆予防について

〇ワクチンを接種することにより、百日咳にかかるリスクを８０～８５％程度減らすことができるとされています。対象年齢になったら早目にワクチンを接種しましょう。
〇手洗い、咳エチケットにより自身や周囲への感染を予防しましょう。
〇咳が長期間続く、または発作性の咳が見られる場合は早目に受診しましょう。

◆ワクチンについて

〇ワクチンの種類　不活化ワクチン（四種混合）
〇対象年齢　　生後２か月～　４回（詳細は生後１か月の頃にお送りした予防接種手帳参照）

◆学校保健安全法による取り扱い

百日咳は学校において予防すべき感染症第二種に規定されており、特有の咳が消失するまで、または５日間の抗菌薬による治療が終了するまで出席停止とされています。

大津市保健所保健予防課　感染症対策係　077-522-7228